

APRICOT 2020

〔参加報告会 開催報告〕

JPNICでは、国際会議への参加を希望する国内の若手技術者・研究者に対して支援を行うプログラムを提供しています。このプログラムの一環として、APRICOT 2020参加報告会を2020年4月2日(木)に開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、完全オンラインでの開催となったこの報告会の様子などをお伝えします。



国際会議参加支援プログラムとは

国際会議参加支援プログラムとは、国内の若手に早い段階から積極的に国際会議に参加して経験を積んでいただき、日本から国際会議に参加する方および海外の技術動向に興味・関心を持つ方々を増やすことを目的としたプログラムで、2015年度より始まりました。長期的には、国際舞台における日本のプレゼンス向上に寄与することをめざしています。

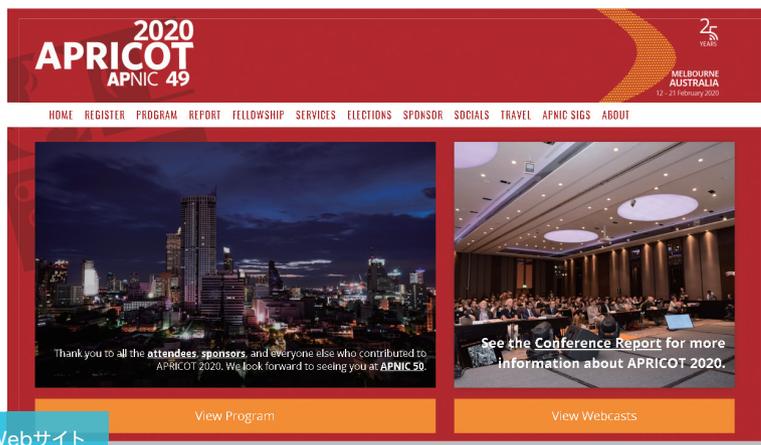
本プログラムの支援対象は、国際会議への参加を希望する国内在住の18歳から30歳までの方で、対象に選ばれた方には旅費をはじめとし

た会議参加に必要な費用の補助や、会議に参加する上での参考情報の提供等を行います。支援する方(フェロー)については公募を行い、JPNIC内に設置された国際人材育成専門家チームによる書類選考の上で決定しています。

なお、プログラムの提供にあたっては、その趣旨にご賛同いただける企業・団体様をJPNICが広く募り、運営費用等に関してご協力をいただきながら進めています。

2019年度の国際会議参加支援プログラム

2019年度は、IGF 2019(2019年11月、ドイツ・ベルリン)、APRICOT 2020(2020年2月、オーストラリア・メルボルン)およびICANN 67(2020年3月、メキシコ・カンクン)の、三つの国際会議が支援対象で、それぞれの国際会議に参加したい方を公募しました(ただし、ICANN 67は新型コロナウイルスの流行による影響で完全リモートによる開催となったため、会議への参加は中止しています)。参加支援にあたっては、帰国後1ヶ月をめどに参加報告書の提出と参加報告の発表をしていただくことになっていることから、今回のAPRICOT 2020参加報告会を開催しました。



[APRICOT 2020/APNIC 49のWebサイト](#)

APRICOT 2020 参加プログラム 選出者による参加報告

APRICOT 2020には、梶原沙恵さんと後藤浩行さんの2名に参加していただきました。

○梶原沙恵さん(株式会社QTnet)

海外に行くのは初めてで、英語もあまり自信がなかったという梶原さんですが、このプログラムのおかげで思い切ってチャレンジす

ることができたそうです。特に印象に残っている講演あるいはセッションとして、APOPSのIPv6 Adoption over Internet Exchanges、Peering ForumのState of Peering in Korea、Tech Girls Socialの三つを挙げていました。

Tech Girls Socialは、世界で活躍する女性エンジニアと多数交流することができ、このような人になりたいと思える人に出

会ったことで「この業界でがんばりたい気持ちが爆発的に上がった」と表現していました。現地でも積極的に他の参加者に話しかけ、なんと会期中は日本人の約3倍、海外の方と名刺交換をしたそうです。「この体験をさまざまな人に伝えたい」ということで、このプログラムの運営にご協力いただいた国際人材育成専門家チームのメンバーからは、ぜひこの経験を今後JPNICオープンポリシーミーティング(JPOPM)でも発表してほしいとのコメントがありました。

◎後藤浩行さん(株式会社グリー)

IETFにはいつも参加している後藤さんは、ネットワークを運用している側・低レイヤー側の考え方やルールメイキングの様子を知って、今後に生かしたいということで今回応募したそうです。特に印象に残ったセッションは、RPKI Deployment、Policy SIG、APOPSの三つだそうです。

Policy SIGでは、IETFのラフコンセンサスとは異なり、システムを利用して賛成/反対など参加者の意向を数で確認するやり方が新鮮に映ったそうです。一方で、提案には継続議論なものも多く、前回までの議論は知っているものとして議論が進むこともある点に、ハードルの高さを感じたとのことでした。このコメントには他のAPRICOT常連参加のメンバーも気づかされることありまして、JPNICのブログでの提案のご紹介や、直前に開催している意見交換ミーティングなど、もっと多くの方に知っていただかなくてはと思いました。

お二人にご参加いただいたのは2020年2月17日(月)からの、会

期後半のカンファレンスでした。ちょうどその週は状況が大きく変わった時期で、この週の後半から、国内外で新型コロナウイルス感染症が大きく広がり始めました。APRICOT 2020に現地参加した方は、日本を出発する前と帰ってきた後の状況の変化に驚かれたと思います。派遣するかどうかぎりぎりのタイミングではありませんでしたが、お二人に同行したJPNIC職員含め何事もなく全日程を終え、また帰国後の体調も問題ないとのことと安心しました。今回の経験が、お二人の今後に良い刺激となりましたら何よりです。

梶原さんと後藤さんのお二人には、現地で開催された懇親会にも参加していただきました(2020年2月撮影)



なお、お二人の参加報告書や発表資料は、JPNICのWebサイトでご覧いただけます。

APRICOT 2020参加支援

<https://www.nic.ad.jp/ja/intl/fellowship-program/apricot-2020.html>



最後に

APRICOT 2020参加支援プログラムは、その趣旨にご賛同いただき運営資金をご提供いただきました協賛企業様のおかげで実施することができました。インターネットマルチフィード株式会社様、日本ネットワークイネイプラー株式会社様には、この場を借りて感謝申し上げます。

また、このAPRICOT 2020参加支援プログラムをはじめとした、国際会議支援プログラムの運営にご協力いただきました国際人材育成専門家チームの皆さまにおかれましても、本当にありがとうございました。

本稿を執筆している2020年5月時点では、たくさんの方が集まる会合の開催については、先が読めない状況が続いています。Internet

Week、Internet Week ショーケース、技術セミナー、ICANN報告会など、多数の主催イベント/セミナーを持っていますので、JPNICも決して人ごとではありません。この国際会議支援プログラムに関しても、ICANN67に現地参加予定だった3名が次回以降現地開催されるICANN会議まで渡航延期となっています。一刻も早く皆さまの生活や業務が通常運行になることを祈りつつ、それまでの間はインターネットを支えている皆さまのお役に少しでも立てるよう、みなさまの安全に配慮しながら、限られた条件や環境の中でどう対応していくかを考えていきたいと思っています。

(JPNICインターネット推進部 坂口康子)

2019年度 JPNIC 国際人材育成専門家チーム ※敬称略

メンバー	北村 泰一 (APAN-JP)	担当理事	石田 慶樹 (JPNIC常務理事)
	高下 誠治 (有限会社Takaエンタプライズ)		
	高松 百合 (株式会社日本レジストリサービス) ※IGF 2019およびICANN67参加支援のみ		
	谷崎 文義 (西日本電信電話株式会社)		
	細谷 僚一 (インターネットマルチフィード株式会社) ※APRICOT 2020参加支援のみ		